

タグラグビーガイドライン Ver1

大阪府ラグビーフットボール協会
普及育成委員長 南 昌宏

【初めに】

日本協会は導入に関する解説の中で「タグラグビーは競技規則を柔軟に変更できる。(中略)タグラグビーの経験が浅い段階では、オーバーステップの反則は厳格にとらなくてもよい。それが起こっても、その場所まで戻ってパスをやり直すなどの適用が考えられる」と明記しています。

今回の改定が、あくまでも「ミニラグビー育成の手段である」との原則に基づき、小学校高学年を対象としたタグラグビーのルール(レフリング)を、そのまま適用するのではなく、U8 レベルに緩和して運用したいと考えています。

【前文部分に関する事項】

1. 試合球 「タグラグビー競技規則」を、改定前の U-12 ミニラグビー競技規則の低学年に準じて、3 号以下のボールを使用するように改めます。
(注)低学年の使用ボールについては、順次、2.5 号球への変更が望ましいと考えています。
2. 人数 同様に、5 人とします。
3. 試合時間 同様に、7 分ハーフ以内(1 日の総試合時間は 30 分以内)とします。

【条文に関する事項】

第4条 タグ

守る側は、タグをとったら頭上に掲げ、皆に聞こえるように大きな声で「タグ!」とコールしなければならない。タグをとられたプレイヤーは、すぐに走るのをやめて止まり、できるだけ早くボールをパスしなければならない。

緩和理由

低学年の場合、タグコールができないことが予測されますので、U-8 の場合は、選手のタグコールが無くても、指導員、レフリーがサポートしても良いことにします。また、タグの装着は指導員もしくはタッチジャッジが行います。

*第4条 タグ U8 特別ルール

守る側は、タグをとったら頭上に掲げ、皆に聞こえるように大きな声で「タグ!」とコールしなければならない。タグをとられたプレイヤーは、すぐに走るのをやめて止まり、できるだけ早くボールをパスしなければならない。

選手のタグコールが無くてもコートに入っている 1 名の指導員とレフリーがサポートしタグのコールをして、試合を止める。

第5条 オーバーステップ

タグをとられたプレイヤーがすぐに止まることができずに 3 歩を超えて動いてしまった場合は「オーバーステップ」の反則となり、その場所から相手チームのフリーパスでゲームを再開する。

*第5条 オーバーステップ U8 特別ルール

タグをとられたプレーヤーがすぐに止まることができずに3歩を超えて動いてしまった場合は「オーバーステップ」の反則となるが、

タグを取られた地点まで戻って、引き続き攻撃側のタグのカウントとして加算する。(ただしタグカウントが4回となる場合は、相手側のフリーパスとなる)

第7条 オフサイド

守る側のプレーヤーが故意にボールより前（オフサイドラインより前）の位置に立って攻める側のタグ後のパスをじゃましたり、横取りしたり、パスを受けるプレーヤーの近くまであらかじめ先回りしてタグをとろうとするなどのプレーは「オフサイド」の反則となる。

オフサイドが起こった場合は、その場所から攻めていた側のフリーパスでゲームが再開される。

タグの回数はリセットされてゼロとなる。

緩和理由

低学年の場合、オフサイドに対応できない場合が多々起こると予想されますので、オフサイドが起こっても、（攻撃側の）タグの回数をリセットするのではなく、やり直し（アゲイン）とします。

* 第7条 オフサイド U8 特別ルール

守る側のプレーヤーが故意にボールより前（オフサイドラインより前）の位置に立って攻める側のタグ後のパスをじゃましたり、横取りしたり、パスを受けるプレーヤーの近くまであらかじめ先回りしてタグをとろうとするなどのプレーは「オフサイド」の反則となるが、

プレーに影響のない場合は、そのままプレーを継続してください。

オフサイドが起こりプレーに影響があれば、タグの回数はリセットされてゼロとなるが軽微な場合はアゲイン（やり直し）とする。

第9条 危険なプレー等

ラグビーでは全ての身体接触および身体接触を誘発するプレーが禁止される。タグをとりにきた手を手で払う、体当たりをする、相手をつかまえる、また、両手を広げて守ることもしてはならない。またボールをキックすることもできない。

これらの反則が起こった場合、反則が起きた場所から反則をしていない側のフリーパスでゲームは再開される。

緩和理由

U-8の場合、意図的でなく不可抗力的に身体接触が起こることが予測されますので、厳密に運用すると、攻撃の継続が損なわれる恐れがあります。意図的に当たりに行くプレーやディフェンス間の狭いスペースを割っていくプレー等は危険な行為として「オフenseチャージ」として、相手側のフリーパスで再開しますが、レフリーの判断で、軽微な接触はタグのカウントとして加算して、引き続き攻撃側のフリーパスで試合を再開するように運用を緩和します。

* 第9条 危険なプレー U8 特別ルール

ラグビーでは全ての身体接触および身体接触を誘発するプレーが禁止される。タグをとりにきた手を手で払う、体当たりをする、相手をつかまえる、また、両手を広げて守ることもしてはならない。またボールをキックすることもできない。

ただし、これらのプレーが意図的でなく軽微な場合は、レフリー判断により攻撃側の反則の場合は、タグのカウントとして加算して引き続き攻撃側のフリーパスで試合を再開される。(ただし、タグカウントが4回となる場合は、相手側のフリーパスとなる)

また防御側の反則の場合は攻撃側のタグカウントを加算せずアゲイン(やり直し)とする。

なお、ディフェンスチャージが繰り返されたりプレーに大きな影響が有る場合は攻撃側に新たにフリーパスを与える。

なお、攻撃側がタグを手やボールで隠したり、体を一回転以上させるプレーや、防御側が、タックルをするように体に手を回したり、遠い側のタグを取ることも反則である。

* 注意事項

1. トライは、自立して立った状態で地面にボールを両手で押さえる事。
2. セットプレーからのオフサイドラインは地点より5mです。
3. コンタクトプレーや相手ジャージをつかむ行為はできません。
4. ボールへの飛び込む行為はできません。
5. キックは禁止です。
6. ハンドオフやタグを取ろうとする相手の手を払う事も禁止です。
7. コート内の指導員はプレーヤーに指導助言を行いながらタグの装着とタグゴールの補助に徹してください。

その他

① 用具について

練習用のタグ・ベルトは、各スクールで対応を原則とします。

また、大阪府ラグビー協会主催の試合も、ミニと同様に、当該チームで用具を準備していただきます。但し、準備出来ないチームについては、当面、大阪府協会でご用意します。

② タグの装着について

U8 の場合、タグの装着に時間がかかることが予測されます。原則として、前の試合のハーフタイム時に各スクール所有のタグを装着する。なお、タグの色と被らないラグビーパンツを着用してください。

③ また、従来のU8の様に指導員(補助員)がメンバーの後ろに立ち、「タグゴール」やタグの装着を行う。

④ また、このルールは大阪府ラグビーフットボール協会 普及育成委員会が定めた試験的ルールであります。実情に合わせての改訂もあります。

以上